

京都市美術館名品展  
開催記念展示

美の競演

京都の美へのオマージュ

9.20日

1.6水

新しい仲間たちを紹介!

平成26年度に収集した作品を中心に

9.30水

1.6水

Our New Collection Artworks  
Donated in 2014

開館時間: 9:00 - 17:00

※10/18までの金曜日は20:00まで、

それ以降の金曜日は19:00まで開館

※入館は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日(特別展会期中、祝日及び振替休日は開館)

入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円

高校生以下無料

縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円

※( )内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぷる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)



名勝「縮景園」とともに歩む アートの杜  
広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL(082)221-6246  
http://www.hpam.jp/ FAX(082)223-1444

## 京都市美術館名品展開催記念展示

### 美の競演 —京都の美へのオマージュ

#### 【概要】

作品同士が共鳴し、鑑賞者とも響きあう—展覧会は美の競演、まさに舞台です。「京都市美術館名品展 うるわしの京都 あこがれの美」(2015年10月31日—12月23日)にあわせて開催する本展では、当館のコレクションの中から京都・広島ゆかりの作家や作品を中心にをご紹介します。

それぞれの時代、それぞれの地域に「アートシーン」がある中、「京都」は近代美術を語る上で欠かすことのできない作家たちを育ててきました。それを証明するかのように当館のコレクションの中にも京都ゆかりの作家たちの作品が多く含まれています。一方、それに勝るとも劣らない、当館が誇る「広島」ゆかりの作品たち。もちろん、当館を代表する作品たちも登場します。ここでしか楽しめない競演を心ゆくまでお楽しみください。

#### 【見どころ】

##### つながっている?! 京都の洋画家たち

当館のコレクションから京都にゆかりのある4人の洋画家をピックアップします。広島生まれで京都市立絵画専門学校に入学し、在学中には関西美術院でも学んだ国盛義篤の《江の浦風景》。同じく、京都市立絵画専門学校出身の小林和作の《春の山》。関西美術院で学んだ里見勝蔵の《娘の化粧》と須田国太郎《るりみつどり》を展示します。同じ学校や師—描かれた個性ゆたかな作品たちから京都のアートシーンを垣間見ることができるでしょう。



須田国太郎《るりみつどり》1956(昭和31)年

##### ムーブメントはどこから? 京都の工芸作家たち

京都・上賀茂神社の社家の家柄に生まれ料理と美において才能を発揮した北大路魯山人。その北大路魯山人《織部魚鱗文俎板角鉢》の隣には荒川豊蔵《黄瀬戸竹花入》を展示。荒川豊蔵は、京都の宮永東山のもとで作陶を学び、北大路魯山人の星岡窯を助けました。また、京都にゆかりのある八木一夫、鈴木治、笹山忠保ら、使うための陶芸から見るためのオブジェを生み出した「走泥社」のメンバーによる作品も展示。一人ではきっと生まれなかった…、作家同士の関係から生まれるムーブメントに注目です。



北大路魯山人《織部魚鱗文俎板角鉢》  
1950(昭和25)年

##### 当館が誇る日本画コレクションの数々

前期展示では、竹内栖鳳とそれに関わる作家を中心にご紹介。後進の育成に熱心だった竹内栖鳳が開設した画塾・竹文会では土田麦僊、上村松園、大村廣陽、金島桂華ら(広島ゆかりの作家も含め)多くの画家が学びました。本展では、京都ゆかりの日本画家の作品とともに、京都と広島の双方にゆかりのある作家の作品も展示します。また、後期展示では長沢芦雪《林和靖図》を中心に、京都市美術館名品展のテーマにあわせて女性を描いた北野恒富《風》や甲斐庄楠音《横櫛》も展示します。



竹内栖鳳《城址》1924(大正13)年  
※前期展示

## 新しい仲間たちを紹介！

### —平成26年度に収集した作品を中心に

※彫刻展示スペースのみ9/20から展示

#### 【概要】

このたびの特集では、昨年度、当館が新たに収集した作品と、寄託を受けた作品を展示します。新収蔵品は、広島ゆかりの作家による13件（日本画3点、油彩画5点、彫塑3点、工芸資料2件）に、西洋美術の版画4点を加えた計17件。寄託品は、《源氏物語図》と、神田周三の戦前作の2点です。

初お披露目となるこれらの作品に、関連のある旧蔵品を一部交えて、新しい仲間たちを一堂にご紹介します。

#### 【見どころ】

##### 吉田正浪の彫刻-師・芥川永作品とともに

彫刻展示スペースでは、このたびご寄贈いただいた吉田正浪作品3点を中心にご紹介します。

よしまさなみ

吉田正浪は、広島県因島市出身の彫刻家です。1963(昭和38)年、広島大学教育学部中学校教員養成美術専攻を卒業、その後1967(昭和42)年に比治山女子短期大学(現・比治山大学)美術科助手、1982(昭和57)年に教授となります。比治山大学では、広島で初の私学による美術教育を始める美術科の創設にあわせ教授として招聘された彫刻家芥川永あくたがわひさしに師事。以来、広島平和記念公園に設置されている芥川永の《教師と子どもの碑》(1971年)や《ヒロシマの碑》(1982年)の制作助手をつとめるなど、芥川とは公私にわたり交流し、ともに広島の彫刻界を牽引しました。晩年には郷里の因島へ移り、瀬戸内海をモチーフにテラコッタ作品を多く制作。広島市内や因島などモニュメントも数多く手掛けました。

本展では、吉田が制作当時下宿をしていた下宿屋の妻をモデルとした初期作《頭像A》、伸びやかなフォルムが澁刺とした生命感を示し、新制作協会展で新作家賞を受賞した《立像》、豊かな肉付けと温和な表現が魅力の《座像》などの新収蔵作品にあわせて、芥川の彫刻をご覧いただくことにより、より深く吉田正浪の造形世界に触れていただければと思います。



吉田正浪《座像》1979(昭和54)年

##### 個性きらめく新収蔵品—絵画・工芸

第4室では、絵画と工芸の作品を展示します。19世紀後半の作と考えられる《源氏物語図》を皮切りに、日本を代表する漆芸家、六角紫水の日本画や、中央画壇で活躍するだけでなく、郷里・広島の美術にも影響を与えた神田周三や鬘光、船田玉樹らの戦前作をご紹介します。伸びやかな画風で知られる緒方亮平の油彩画は、戦前の初期作から戦後の充実期まで、画風の変遷がたどれる4点が新収蔵品です。さらに、戦後の作品では、20世紀を代表するイタリアの彫刻家、マリノ・マリーニの版画とともに、河面冬山の資料を収蔵。高度な技術を体得する一方で、蒔絵の大衆化を目指した冬山の姿勢が伝わる資料です。

今後、当館のコレクション展で活躍してくれる作品たちを初めてご紹介するこの機会。どうぞごゆっくりご鑑賞ください。



緒方亮平《南の室》1959(昭和34)年

## 【関連イベント】

※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

### 友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが、HPAMコレクション展についてわかりやすく解説します。

日 時：平日14:00～/土日祝11:00～、14:00～（1時間程度）

場 所：2階展示室

参加料：無料

※要入館券（高校生以下無料）、申込不要

※ただし、9/20 11:00～・14:00～、10/18 14:00～、12/26～1/4 11:00～・14:00～は休み

※毎月第4土曜日11:00～は、小学校及び特別支援学校小学部第5・6学年の児童と保護者の皆様を対象に、“親子ギャラリートーク”として実施します。

### コレクションを描いてみよう♪

いつもの「コレクションを描いてみよう♪」です。友の会ギャラリーガイドさんと一緒に鑑賞して、お気に入りの作品を模写しよう！できあがった作品を当館のロビーに展示します。

日 時：10月25日（日）10:00～12:00

講 師：山本志帆（作家）、広島県立美術館友の会ギャラリーガイド

受付：2階ロビー 会場：2階展示室 対象：4歳～中学生 料金：500円 定員：20名

申込方法：お電話でお申込みください。（お名前、年齢、ご連絡先をお伺いします。）広島県立美術館 082-221-6246（9:00-17:00）

※受付は開始の30分前

※制作した作品は展示終了後、郵送にて作品返却

※同伴の保護者は1名まで無料、2名から1名あたり500円

※未就学児の方には保護者の同伴をお願いします

※道具、画材等の持参は不要です

### ミニギャラリートーク「広島の前衛画家一翫光と船田玉樹」

日時：11月14日（土）10:30～11:00

会場：2階展示室（4室前集合）

※要入館券（高校生以下無料）、申込不要

---

## 【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

### 問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. Ke.yamamoto@nomura-g.jp（山本宛）

担当 学芸課 石川哲子、藤崎 綾

事業推進課 山本恵子